平成20年６月27日
総務省統計局

平成19年平均 消費者物価地域差指数の概況

1　地方別の物価水準

平成19年平均消費者物価地域差指数（全国平均＝100）の総合指数（持家の帰属家賃を除く）を地方別にみると，関東が103.0と最も高く，次いで北海道が102.3，近畿が101.1，東海が100.3となっている。また，北陸は全国平均と同じ100.0となっている。

一方，最も低いのは，沖縄の94.8で，次いで九州が96.8，四国が97.0，東北が98.5，中国が98.9となっている。（図）

2　都市階級別の物価水準

都市階級別にみると，大都市が104.7，中都市が100.2，小都市Ａが98.4，小都市Ｂが97.0，町村が96.7となっており，大都市は町村に比べ8.3%高くなっている。

3　都道府県庁所在市別の物価水準

都道府県庁所在市別にみると，東京都区部が110.9と最も高く，次いで横浜市が110.4，大阪市が107.2，京都市が106.0，静岡市が105.1などとなっている。

一方，最も低いのは，宮崎市の96.5で，次いで那覇市が96.6，秋田市が97.8，松山市が98.8，前橋市が98.9などとなっている。

なお，東京都区部は宮崎市に比べ14.9%高くなっている。
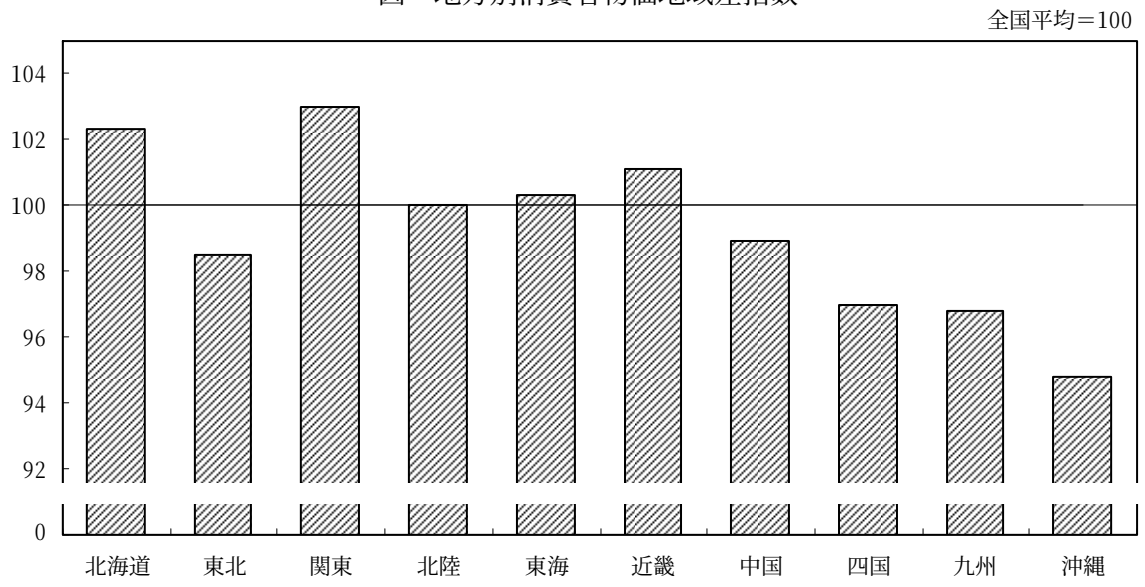
図　地方別消費者物価地域差指数